

茨城県水戸市のより良いまちづくり計画

現在日本では少子化や高齢化という深刻な問題を抱えており、今後人口減少は年々拡大化していき、茨城県のような地方では高齢者が増加すると予想される。そのため、地域としての活性化は極めて困難な状況に発展する可能性も考えられる。そこで、全国の地方自治体は地域の特性や地域住民と連携した取り組みを求めつつ、地域住民が安心して暮らせるまちづくり出来る取り組みを模索している。実際に茨城県水戸市中心市街地に位置する南町商店街では、かつて幅広い世代の人で溢れかえり商店街を中心とした賑わいを見せていた。

しかし、都内への人口集中が激しく、後継者問題がより深刻化していった。そこで、本研究では筆者が生まれ育った茨城県の県庁所在地である水戸市の中心市街地に焦点を絞り、水戸市の概略や南町商店街の変遷を明らかにし、年々増加傾向にある高齢者を中心とした地域活性化への取り組みを検討することを目的とする。そこで、水戸市のより良いまちづくりのために「個人」に焦点を当て、インタビュー調査を実施した。

その結果、茨城県は都内と比べてどこに行くにもバスや電車より自家用車を使用することが多いことが明らかになった。そのため、リーズナブルな価格設定と品揃えが豊富なスーパーの進出が大きく影響しこれまで生活を支えてきた商店街の店の不況に繋がってしまっていることが分かった。また、大手チェーン店の進出も影響していた。

以上の通り、本研究では、水戸市の現状とその背景と要因について明らかにすることが出来た。今後の課題として古くからの伝統と革新的な技術を活用したまちづくりの両立を目指した取り組みを行っていく必要があると考える。